

2月16日(火曜日)

ドル/円

## ギリシャ問題の行方に注目が集まる

### 15日(月)の主な推移

チャート: 30分足 15日(月)朝7時 ~ 16日(火)朝7時

NYダウ平均	休場
米長期金利 (10年債利回り)	休場
NY原油先物	休場



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所:外為どっとコム

①

本邦第4四半期GDP・一次速報が前年比+4.6%と事前予想の+3.5%を大きく上回ったことで日経平均株価がプラスでスタート。株高によりリスク許容度がやや拡大しクロス円に買いが入ったことや、仲値公示に向けてドル買いが出たことにより、ドル/円は90.22円まで上昇した。

②

ユーロ圏財務相の発言が相次ぐ中、ギリシャ救済の支援策について具体策が出なかったことで不透明感が漂い、ユーロが対円や対米ドルにて下落した。ユーロの下落につられる形でドル/円は値を下げ、23時前には15日の安値となる89.90円を記録した。

③

アメリカ市場がプレジデントデーにつき休場のため、動意が薄くなり値動きも小幅に留まったことで、ドル/円は90円を挟んでのもみ合いが続いた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

### 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

### 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

### 本日の見通し

本日の予想レンジ: 89.50-90.60円

本日もユーロ圏財務相会合にてギリシャの財政問題が話し合われる見込みであるが、ここきてギリシャ政府によるスワップ取引を使った債務隠しの疑いが浮上したうえ、昨晚の会合では救済策に具体的な内容が発表されなかったことで、市場にはギリシャ救済問題の行方について不透明感が漂い始めている。ギリシャは3月16日に財政再建状況の実施状況の報告書を出すことになっており、すでに現在の市場の関心は本日の財務相会合よりも、ギリシャからの報告書の内容や、4・5月のギリシャの大量国債償還が消化できるのかどうかに集まっている様子である。

その他の注目材料としては、米2月ニューヨーク連銀製造業景気指数と12月対米証券投資が挙げられる。米市場は実質本日よりスタートのため、合わせて株式市場や商品市況の動きにも注目したい。

テクニカル面では動意の薄い中、2営業日連続で引値が90円台割れとなっている。先週11日の足形が上ヒゲが目立つ形となっており、上値を重くしている。そのため11日高値91.41円と引値での90円台乗せの攻略が今後のポイントとみられる。

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/16(火)	17:30	◎	ユーロ圏財務相会合	—	—
	22:30	○	米2月ニューヨーク連銀製造業景気指数	15.92	18.00
	23:00		米12月対米証券投資(ネット長期フロー)	+1268億USD	+354億USD
	27:00		米2月NAHB住宅市場指数	15	16

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com